

●第177号(二〇一五年十二月) 特集 地域の中の「コミュニティデザイナー」はいかに生まれるか?都市でつながりを創る人々の研究

- 1 はじめに 編集部
2 大学によるコミュニティデザイナー育成への挑戦 編纂部
3 横浜でつながりを創る人々に伺う 岡崎エミ、醍醐孝典
① 地域ケアアラザのコーディネーターとして、百年先にも続くまちのつながりを
② 新しいスタイルのアンテナショップ「Kuraide」(クラカフェ)を開設 中村郁子、野崎貴之、中盛孝
③ 学び合いのネットワークの力で子育て支援の循環を生み出す 塚原泉、松村健也、戸矢崎悦子
④ 世界で一番、地域と密着な宿を作る 加藤功甫、渡部清香
⑤ 学校ボランティアから生まれる地域のつながり 山田緑、伊藤和義、高橋義成
⑥ 映画、音楽、読書:様々な分野からのアプローチ 沼田真一、田中昭彦、小山敬之、武田あすか
⑦ ボランティアを支えるコミュニティカフェで元気づくり 岡本澄子、山村拓末、魚谷伸、末岡雅幸、岩屋亮太郎
⑧ 放課後施設を拠点に「食」を通じて地域のつながりを 和賀康子、廣井理絵、米満東一郎
⑨ 地域の拠点施設とのネットワークから子育てパパの交流を生み出す 浦瀬巨、及川康志、浦山剛、北風保
⑩ 地域という「異業種集団」で鴨居の魅力を生かす 狩野陽二、安養寺智、門脇賢一、北見秋満
⑪ 世代を超えた結びつき 井上晴彦、山口宣子、武智勇人、瑞石利恵
⑫ 誰もが活躍できる場づくり 清水力、山口宣子、武智勇人、瑞石利恵
⑬ シニアパワーを引き出す地域貢献型老人クラブを栄区から! 竹谷康生、勅使川原栄子、田中真弓
⑭ 学校や古民家から共感で広がる「見守り・見守られ」の輪 清水靖枝、藤澤智明
4 つながりを創る人々の養成に関連する取組
① 行政からみた「協働の『地域づくり』」事業」座談会 圓城寺美紀子、中盛孝司、木村文男、松岡文和、安養寺智
これからの「地域の学び合いの場づくり」に向けて 吉原明日香
② 学校・地域コーディネーターがつかう学校と地域 山手英樹
③ 地域ケアアラザ 地域活動交流コーディネーターの養成について 大橋直之、前田雅美
④ 養成に携わって 仲丸等
⑤ つながりづくりを取り組む職員 佐塚玲子
⑥ 保健師としての「つながりづくり」を振り返る 新堀嘉代子、小室徹
⑦ 住む人の思いをフルスケールの「まち」の形に変えて 堀田和宏、小林武、寺岡美貴
⑧ 地域に寄り添い、本音で向き合う「地域支援」 小林康夫、松岡文和、田中省吾

6 まとめ 編集部
第2特集 地域がまちをつくる。地域とまちをつくる。地域まちづくり推進条例10年

- 1 地域まちづくり 石津啓介
① 地域コミュニティを元気にする 名和田是彦
② 横浜市の地域まちづくり、今後10年にむけて 卯月盛夫
2 地域のまちづくりで実現できたこと 石津啓介、菅井亜紀子、川原宏美、森隆行
3 次なる課題に挑戦 菅井亜紀子
① 地域まちづくり推進のあり方検討 内海宏
② 「ヨコハマ市民まちづくり」の企業連携の取組 中里浩一郎
「文化振興課主任調査員研究レポート」 鬼木和浩
「調査研究レポート」 梶川浩
●第178号(二〇一六年三月) 特集 ダブルケアとオープンイノベーション
1 座談会「女性の活躍とイノベーション」 天野馨南子、大嶋寧子、佐々木裕子、塚原月子、池戸淳子、長谷川孝
2 座談会「横浜はダブルケアにどう立ち向かうのか」 相馬直子、菊地加奈子、小林一美
「コラム」 シングルの女性が直面する「介護」小園弥生
「コラム」 多様な主体が関わるテーマとして「ダブルケア」に注目 林正隆
「コラム」 大学が担うダブルケアとオープンイノベーション 小池星多
3 ダブルケアとは何か 相馬直子、山下順子
4 地域社会の視点からダブルケアについて考える「ダブルケアサポーター横浜」を中心 東恵子
「コラム」 ダブルケア支援における地域交流コーディネーターの役割と課題 菊地真弓
「コラム」 ダブルケア支援における子育てひろばの役割と課題 北原基子
「コラム」 特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブ たすけあい栄だからできること 知野朱美
「コラム」 子育て支援の現場から見るダブルケア 伊藤保子
「コラム」 ダブルケア支援における社会福祉協議会の役割 武田博美
「コラム」 ダブルケア視点から多世代型地域包括ケアシステム構想を考える 小藪基司
5 座談会「ダブルケアと多様な働き方、テレワーク」 横澤昌典、小安美和、湯田健一郎、田島定尚
「コラム」 多様な働き方の手段としてのテレワーク 横澤昌典

編集後記

横浜は開港以来、「価値観は人それぞれ、人生は十人十色」ということを市民がお互いに認め合いながら、発展してきた都市です。だから女性も男性も、お年寄りも若者も、一度失敗を経験した方も、障害や難病のある方も、誰もが自由に呼吸し、生き生きと活躍できるチャンスがある。そういう都市です。「女性活躍」をテーマにした今号の調査季報では、家庭で、職場で、地域で、それぞれの現場で有償、無償を問わず、家族や仲間と共に、そして家族や仲間のために働き続ける数多くの女性たちに、これまでの生き様と未来への抱負を語ってもらいました。なので、今号の調査季報は、これからの横浜の未来を切拓く「高校生」にこそ読んでもらいたいと考えています。ここでいう「高校生」とは、実年齢ではなく、この調査季報に登場する女性たちのように、物事の本質を深く考え、世界の変化に対して新鮮に驚くことの出来る感受性を持ち続けている人たちが、現実の困難な状況に立ち向かい、時にはうまくかわしたり、すり抜けたりしながら、決して明日への希望は失わない。そういう個性を持った市民すべてを指しています。この調査季報の発行を通じて、性別や世代、国籍や地域、思想や信条を越えて、このような市民の輪が広がっていくことを何よりも願っています。(関口)

「コラム」 社会や組織の未来を創る、新しい時代の働き方
「コラム」 ダブルケアに対応しうる働き方変革「テレワーク活用推進に向けたパソナの取組」 湯田健一郎、林真依
「コラム」 i-ironで創る多様な働き方とテレワーク 小安美和
6 地域金融機関と共に進めるダブルケア(介護・子育て)関連事業者支援プロジェクト 三善直樹
「コラム」 横浜における新しい生活サービス産業の芽生え「シェアリングエコノミー」が横浜にもたらすインパクトとは 田中多恵
「コラム」 インターネットを利用した生活サービス産業におけるエキサイトの新サービス「家事支援を頼みたい人」とサポーターする人を直接マッチング「ファミリサポーター」 有澤真悠子
「コラム」 ダブルケアと生活支援サービス産業「あつとほ」の取組から 小栗シロウコ
「コラム」 コーポレート・フェローシップに参加して 村上文洋
「コラム」 横浜型リビングラボ 原田博一
7 横浜のオープンイノベーションのこれから 長谷川孝

編集・発行 横浜市政策局政策課
2017年2月発行
印刷/亜細亜工業写真株式会社
500円(消費税込み)
〒231-0017 横浜市中区港町1-1
TEL. 045-671-4087
FAX. 045-663-1225